

一般研究集会（課題番号：30K-04）

集会名：トランスディシプリナリアプローチによる減災社会の形成のための研究集会（防災計画研究発表会 2018）

主催者名：国際総合防災学会 IDRiM Society

研究代表者：高木 朗義

所属機関名：岐阜大学 工学部

所内担当者名：畑山 満則

開催日：平成30年 9月24日、25日（京都）、平成31年 3月28日（愛媛）

開催場所：京都大学 宇治キャンパス きはだホール／愛媛大学

参加者数：【京都】：40名（所外26名，所内14名），

【愛媛】：12名（所外9名，所内3名）

・大学院生の参加状況：【京都】12名（修士12名，博士0名）（内数）

【愛媛】5名（修士5名，博士0名）

・大学院生の参加形態：【京都】[発表者3名，運営補助3名，その他は聴講参加]

【愛媛】[発表者0名，運営補助0名，その他は聴講参加]

研究及び教育への波及効果について

本研究集会は、産官学からの参加者が、防災・減災に関する課題に理論的、実践的にアプローチした際のプロセスを重視した研究発表会である。本年度は、防災研究所での発表会に加え、平成30年7月豪雨災害の被災地である愛媛でワークショップを開催した。復旧期に行政・地域での支援型研究を実施した研究者の知見の集積を図ることで新たに露見された災害対応の課題を認識することにより、防災研究のすそ野を広げる効果が期待できる。

研究集会報告

(1) 目的

災害対応・復旧・復興から防災・減災に関する今日的課題は多岐に亘りかつ複雑である。課題解決には、関連する異分野の専門家が相互に知恵を出し合うだけでなく、非専門家である実務者をも巻き込んだ超学際的なアプローチが必要となる。本発表会では、災害復興や地域防災に携わる土木、建築、情報、社会心理などの研究者やコンサルタント、国・自治体の実務者、地域防災団体やNPO活動家が一同に集い、実践的・理論的な研究・活動発表と様々な視点から討議し、災害対応・復旧・復興や防災・減災に関する課題解決や今後の展開について議論する。特に、災害発生時の復旧・復興期における調査の在り方について、被災者、被災行政、災害支援団体、災害研究者の視点から意見を交換し、被災地に寄り添う調査手法を確立することを目的とする。

(2) 成果のまとめ

本研究会では、阪神・淡路大震災以降の災害の復旧・復興活動を通して立ち上がったNPOやその支援研究者、国際総合防災学会に所属する国際防災実践を行う研究者に加えて、環境防災に取り組む行政や研究者も参加した。京都に加えて被災地である愛媛でも開催することで、平成30年7月豪雨災害により新たに生まれた課題意識に立ち向かうための知識の共有を図ることができた。特に、同時に複数個所で発生した水害・土砂災害であり、200名以上の死者・行方不明者を出した平成30年7月豪雨災害について、岡山、愛媛での避難行動や災害対応の実態について意見交換を通して今後の防災教育、それを踏まえた防災計画への反映するための示唆を得ることができた。研究と実践を結び付ける活動という意味でも社会的意義は極めて大きい研究集会であった。

(3) プログラム

===== 京都サイト =====

【9月24日(代)】

9:20-9:30 オープニング

9:30-10:30 セッション1

1. 水害時の避難行動を実践するための住民組織による雨量観測と情報共有の試行

東 善朗 (岐阜大学)

2. 平成30年7月豪雨災害検証から見えてきた課題～岐阜県内自治体の災害対応例を中心に～

高木 朗義 (岐阜大学 工学部)

10:40-12:10 セッション2

3. 避難所指定校における廃水浄化処理施設の災害時対応改修事例

吉野 眞一 (和歌山工業高等専門学校 総務課)

4. 災害対応の標準化と情報システムー平成30年7月豪雨での対応からー

畑山 満則 (京都大学 防災研究所)

5. 携帯電話位置情報からわかる大雨時の避難勧告・緊急速報メールに対する反応

山口 裕通 (金沢大学大学院 自然科学研究科)

13:00-14:30 セッション3

6. 既存木造建築物の有効活用と防災まちづくりの課題

西嶋 淳 (大阪商業大学 経済学部)

7. 環境・防災を融合した体験型学習の効果検証ー近江八幡市立馬淵小学校の10年間の取組ー

瀧 健太郎 (滋賀県立大学 環境科学部)

8. 「想像から始める防災」の取り組み

佐々木 和之 (水色舎)

14:40-16:40 セッション4

9. 大規模火山噴火を想定した事前避難方策のための降灰位置推定

近藤 一飛 (京都大学 情報学研究科)

10. 辺連結度+ α カットを用いた道路網脆弱性評価手法の提案

杉浦 聡志 (岐阜大学 工学部)

11. 災害時における救援物資ロジスティクスと応急給水活動の相互補完に関する研究

伊藤 秀行 (減災ロジスティクス研究所), 吉澤 源太郎 (大阪市水道局)

12. 災害物流はなぜ失敗するのか? : 改まらない誤解

奥村 誠 (東北大学 災害科学国際研究所)

16:50-17:50 全体討議

高木 朗義 (岐阜大学), 畑山 満則 (京都大学防災研究所)

【9月25日(土)】

9:15-11:15 セッション5

13. 救援物資関連の定量的データの保存・収集について

伊藤 秀行 (減災ロジスティクス研究所)

14. 情報支援の役割と課題ー平成30年7月豪雨災害から考える

宮川 祥子 (慶應義塾大学)

15. 回答時期に着目した大規模災害時調査の回答世帯の偏り: 熊本地震における益城町の事例

佐藤 嘉洋 (熊本大学)

16. 自治会におけるハザードマップの作成が地域防災力に及ぼす影響

山下 花音 (滋賀県立大学 環境科学部)

11:30-12:00 全体討議

高木 朗義 (岐阜大学), 畑山 満則 (京都大学 防災研究所)

12:00-12:10 クロージング

===== 愛媛サイト =====

【3月28日 (木)】

9:00-15:00 平成30年7月豪雨災害 被災エリア (愛媛県宇和島市) 視察

16:00-17:30 セッション

1 平成30年7月豪雨における住民・地域の対応行動分析

畑山満則 (京都大学 防災研究所)

2 平成30年7月豪雨における愛媛大学の支援活動1

羽鳥 剛史 (愛媛大学 社会共創学部)

3 平成30年7月豪雨における愛媛大学の支援活動2

二神 透 (愛媛大学 社会共創学部)

17:30-18:00 全体討議

(4)研究成果の公表

<http://dimsis.dpri.kyoto-u.ac.jp/IPwiki/index.php?forum2018> (こて概要を公開中)